



# 自然とも戦う

文&写真 「中大スポーツ」新聞部 高田遥介(法学部3年)

葉山沖で試合中の中大ヨット部

## 最も過酷な取材

「中大スポーツ」新聞部(以降中スポ)は大学公認の機関紙として、中大の体育連盟に所属する全48部会を取材している部活動です。硬式野球や陸上競技といったメジャーな部活動だけでなく、拳法や自転車競技のような専門的な部活動まで幅広い取材を行っています。

その中で、最も過酷な取材をしてみると言っても過言でない部会、それがヨット部です。他部会の取材のように、陸地で取材するのは試合後のインタビューだけ。ヨット部取材では常に風と波で揺れる船上から写真を撮り、記録を取ります。さらに乗船時間は、通常1日5レースを行う影響で7時間近くになり、船に不慣れた記者は船酔いを避けられません。ヨット部取材の際、酔い止め薬は必須アイテムです。

ヨットの試合は大きく分けて3つの天候に左右されます。天気、風、波という3つの自然です。中でも風や波といった海の状態の把握に欠かせぬ天候条件は、当日にならないとわからず、また一日の中や季節で風

向きや強さが変わる不安定さもあり、風を読み切ることはヨット部員であっても難しいのです。

今年4月18、19日に葉山で行われた関東学生女子ヨット春季選手権大会は、まさに天候に左右された大会でした。初日は8mを超える強風の影響を受け、実施されたレースは1つだけ。打って変わって2日目は、無風のため途中でレースが中断。午後から再開しましたが、結局2レースしか行われず、2日間で僅か3レースのみとなってしまいました。そしてこの3レースだけで試合結果が決まったのです。

ヨットはブイと呼ばれる海上に設置された4つのマークを規定回数回り、ゴール順で争うチーム競技。470級とスナイプ級の2種類があり、レースではそれぞれ3艇まで出られます。試合中はチームの中で好調な艇を勝たせるために対戦校の進路を自由にさせない艇がいるなど、チーム力が試されます。1つのヨットには2人が乗り、舵取り役のスキッパーと艇のバランスを保つクルーが協力して操船します。2人の息が合わないとヨットは転覆し



てしまいます。海上には複数のレスキュー隊が待機しており、常に緊張感が漂います。

「風が強いと危険なスポーツに変わる」と三園徹監督が言うように、ヨットは対戦相手だけでなく自然とも戦うスポーツ。それゆえ、試合中や練習中では苦しいことが多いといえます。しかし「自分の体重とヨットと風がマッチした快感は忘れられない」(三園監督)と、一度快感を得ると病み付きになる競技でもあります。

この快感こそがヨットの最大の魅力なのかもしれません。また中スポによる試合の取材は「(ヨット部は)マイナー部会なので、少しでも来てもらって(大学に)知れ渡ってほしい」(三園監督)と、ヨット部の宣伝に微力ながら貢献しています。対戦校だけでなく自然も相手に戦うヨット部を、中スポはこれからも天候と戦いながら取材していきます。